



がん対策に全力

県立がんセンターで最先端の医療

がんは生涯で2人に1人がかかる病気とされています。

公明党神奈川県議団は、一人でも多くのがん患者を救うため、これまで神奈川県立がんセンターにおける先進的な医療の実施や患者支援など、本会議や委員会でも数多くの提言を行ってきました。

こうした中、県立がんセンターでは、次のような取り組みを進めてきました。

◆最先端の医療

- ①体への負担が少ない「重粒子線治療」
- ②遺伝子情報に基づく「がんゲノム医療」
- ③免疫力の増強によりがん細胞の増殖を抑える「がん免疫療法」

◆抗がん剤の副作用を緩和する「漢方診療」

◆外見上の悩みなどの相談を受ける「アピアランス・サポート・センター」



このうち、重粒子線治療施設「i-ROCK(アイロック)」は、2015年に世界初の病院併設型の施設として開設されました。当初は先進医療でしたが、順次、保険適用の範囲が拡大されたこともあり、多くの患者に治療を提供しています。

さらに、2022年4月からは、肝臓、すい臓、子宮、直腸がんの一部など、5疾患が保険適用の対象として新たに追加され、今や、県立がんセンターにおける重粒子線治療のうち、約9割が保険適用となっています。

**重粒子線治療電話相談窓口(患者支援センター内)
045-520-2225(平日9時~16時)**

**重粒子線治療施設「i-ROCK(アイロック)」
の詳細は以下のQRコードから。**



第5の治療法「光免疫療法」を開始へ

がん治療は急速に進歩しており、第5のがん治療法ともいわれる「光免疫療法」も、2020年には頭頸部がんの一部に対する治療が保険適用となりました。

光免疫療法とは、がん細胞の表面のタンパク質に結合する薬剤を投与し、レーザー光を当てることで薬剤が反応し、がん細胞を死滅させる治療法で、他の細胞を傷つけず、手術に比べても負担の少ない治療法です。

頭頸部がんは、口の中や喉、顔や首などに発生するがんの総称で、光免疫療法はそのうち、再発するなどして手術ができない、放射線治療などの標準治療もできない患者が対象です。

公明党県議団では、2022年12月の本会議で黒岩祐治知事に対し、「県立がんセンターでも、光免疫療法に積極的に取り組んでいくべき」と迫りました。

知事は、「光免疫療法については、現状、がんセンターにおける治療実績はありません。しかし、治療が実施できる施設としての要件は既に整えており、今後、対象となる患者に治療を開始する」と明言しました。